

## 当院検査室のプリセプターシップ制度を受けて得たもの

～プリセプティとしての一年を経て～

◎水谷 紅音<sup>1)</sup>、川端 しのぶ<sup>1)</sup>、川端 直樹<sup>1)</sup>  
市立敦賀病院<sup>1)</sup>

【はじめに】当院検査室では、新人教育研修プログラムにプリセプターシップ制度を導入している。プリセプターシップ制度とは、先輩職員（プリセプター）が新入職者（プリセプティ）に対し、基本的な業務や社会人としての心得などを教育する仕組みである。私は卒後3年間検査センターに勤め、令和4年度に入職し本プログラムを受けた。プリセプティとしての一年間の経験から得られたこと、先輩職員となった今活かしていること、そして本プログラムの内容を報告する。【方法】入職日から部門ごとに当直業務に入るための研修を1～2か月間行った。技術指導は各部門の技師が行い、最終的に部門責任者が部門ごとに設定した項目に沿って理解度を評価した。プリセプティは研修内容を日誌に記入しプリセプターに提出、プリセプターは本人との対話に加え日誌から研修内容を把握し、アドバイスを追記した。また、研修期間後は担当部門に配属され、更なる技術の習得と当直業務の実践練習を行った。【結果】プリセプターとプリセプティが異なる部門にいる期間は、日誌がプリセプターとのコミュニケーションツールの一つと

なった。この日誌は研修内容の振り返りのみでなく、プリセプターから追記されたアドバイスが不十分な点の気づきとなり、励みにもなった。プリセプターは、プリセプティと各部門スタッフとの橋渡し役にもなり、トラブルもなく順調に進んだ。また、当直業務の実践練習はプリセプターが中心となってサポートをしてくれたため、不明な点や不安をすぐに解決できた。【考察】プリセプターシップ制度は、各部門での技術習得のみでなく、不慣れな職場でスタッフのコミュニケーションを良好に築くことの助けとなり、卒後数年経過した者にとっても有効な取り組みであると感じた。現在は新たな新入職者が本プログラムを受けており、私は先輩職員となった。自身の経験を現プリセプティに話すことで、現プリセプティがささいな事でもプリセプターに相談できており、積極的にプリセプターとコミュニケーションをとることに繋がっているのではないかと感じている。今後はこの経験を活かし新人教育研修プログラムの再考・改善に取り組んでいきたい。

連絡先：0770-22-3611（内線4201）